

2022年度 入学試験問題

(商業科特別推薦入学試験 12月12日)

簿記

注意事項

1. 解答用紙は、中程に折り込んであります。
2. 解答用紙には、受験番号および氏名を忘れずに記入して下さい。
3. 解答は、問題ごとに解答用紙の所定の欄に記入して下さい。
4. 問題用紙は1ページから2ページです。
解答用紙は、3枚です。
万一枚数が足りないときは手を挙げて合図して下さい。
5. 試験終了後、問題用紙は各自持ち帰って下さい。

1 次の取引の仕訳を示しなさい。なお、商品勘定は3分法によること。

1. 東京商店より、商品¥250,000 を仕入れ、すでに手付金として支払っていた¥50,000 を差し引いた残額を小切手を振り出して支払った。なお、当座預金勘定残高は¥120,000 であった。当店は取引銀行と最大限度額を¥500,000 とする当座借越契約を結んでいる。また、当座借越勘定を使って処理する。
2. 前期に貸倒れとして処理した千葉商店に対する売掛金¥30,000 を現金で回収した。
3. 建物に対する固定資産税¥100,000 を現金で支払った。なお、この建物のうち 60%が店舗であり、40%は店主の住宅である。なお、当店では資本の引き出しの際に引出金勘定を使って処理している。
4. 20X8 年 12 月 31 日（決算日）に、営業用の建物（取得原価：¥1,000,000、減価償却累計額¥360,000）を¥700,000 で売却し、代金は翌月末に受け取ることにした。なお、この建物は間接法で処理してきており、当期分の減価償却費¥90,000 は計上していない。

2 当社は X 商品の売買を行っている。次の取引について、(1) 移動平均法によった場合の商品有高帳を作成するとともに、(2) 先入先出法によった場合の売上高、売上原価、売上総利益（商品売買益）を計算しなさい。

| | | | |
|----------|----------|------|-------|
| 12 月 1 日 | 前月繰越 | 20 個 | @¥600 |
| 8 日 | 大阪商店より仕入 | 80 個 | @¥700 |
| 16 日 | 博多商店へ売上 | 60 個 | @¥900 |
| 22 日 | 京都商店より仕入 | 60 個 | @¥800 |
| 25 日 | 熊本商店へ売上 | 50 個 | @¥920 |

なお、12 月において、給料¥10,000、家賃¥3,000、水道光熱費¥1,000 が発生し、全額支払済みである。

3 次の表の①～④にあてはまる金額を解答用紙に記入しなさい。

| 期 首 | | | 期 末 | | | 収益の 総 額 | 費用の 総 額 | 当期純利益 |
|-------|----|-------|-----|-------|-----|------------|------------|-------|
| 資産 | 負債 | 純資産 | 資産 | 負債 | 純資産 | | | |
| 3,500 | ① | 2,200 | ② | 1,700 | ③ | 4,250 | ④ | 850 |

4 次の取引について起票しなさい。

1. 備品¥500,000 を購入し、代金のうち¥200,000 は現金で支払い、残額は当月末に支払うこととした。なお、取引を分割して起票すること。
2. 商品¥500,000 を売り上げ、代金のうち¥50,000 は現金で受け取り、残額は掛けとした。なお、いったん全額掛け取引として振替伝票に記入する方法によること。

5 次の期末修正事項により、解答用紙の精算表を完成しなさい。会計期間は 20X8 年 1 月 1 日から 20X8 年 12 月 31 日の 1 年である。

<期末修正事項>

1. 買掛金¥30,000 を現金で支払ったことを記録していないことが判明した。
2. 売掛金残高に対し 4% の貸倒れを見積もる。差額補充法による。
3. 有価証券の期末時価は¥150,000 である。
4. 期末商品棚卸高は¥130,000 である。売上原価は「仕入」の行で計算する。
5. 建物については定額法により減価償却する。この建物の耐用年数は 15 年、残存価額はゼロとする。
6. 消耗品の未消費高が¥20,000 ある。
7. 貸付金は 20X7 年 7 月 1 日に、利率年：4%、利払日：毎年 6 月末日、期間 3 年という条件で貸し付けたものである。